

## 国際協力特別賞

テレビがなくても

神奈川県立相模原中等教育学校 1年

梶村 あゆみ

私のお母さんは面白い人だ。なぜならこの間炊飯器を使うのをやめた。湯沸かし器も使わない。布団乾燥機は捨てた。私が小さい時にはテレビも捨てた。テレビがないと言うと友達におどろかれることがあるのだが、私には当たり前なので、なぜおどろくのか分からない。

お母さんがそれらを捨てた理由は「なくても大丈夫そうだったから」ということらしい。今はご飯は土鍋で炊き、お湯はやかんでその都度沸かし、情報はラジオとインターネットニュースで得る。だいたいなんとかなるのだ。それで困ることもあまりなく何かに遅れるということもない。

そんなことがあるからか、2015年度の我が家の電気使用量は総務省の家計調査の世帯あたりの平均電気使用量の70パーセントに満たない。前年の同月よりも一日あたり約3パーセントずつ減っている計算になる。もちろん月によって増えたり減ったりするのだが。

家電を減らして節電すると不自由になるのかというと、じつは、そう悪いことばかりではない。土鍋で炊くと香ばしくておいしいご飯が食べられるし、家族で炊き方を覚えればみんなのサバイバルスキルが上がる。お茶を飲む程度のお湯であればやかんで沸かした方が速い。テレビの画面にとらわれない生活になる。エネルギーを無駄にしないだけでなく、こんないいことがあるのだからお母さんの判断は一石二鳥だったと思う。

近年、日本は電化製品や自家用車の増加と同時に家庭部門のエネルギー消費量が増えてきた。2010年は1973年と比べて2.2倍になった。そんな家庭のエネルギー消費量の48パーセントを占めるのが電力だ。各国のエネルギー消費量を比較すると第1位は中国であるが、第5位の日本の方が一人あたりの消費量はずっと多い。ということは、日本人のペースで世界の人がエネルギーを消費するようになったら、世界的なエネルギー不足になりかねない。

エネルギー資源には限りがある。エネルギーの分配は国の力とか、経済力とか、開発のこととか、いろいろなことが絡んでいそうがよくわからないけれど、いくらでも使っているものではないということは確かだ。私たちは、私たちがいまできることからしか始められ

ない。

だから私たちは、身近なエネルギーの節約から進めていこう。家電製品の電源はこまめに消す。必要のないものは使わない。大きさや掃除、置き場所などを工夫して効率よく使う。こんな小さなことから地球の未来が少しでも明るくなったらいいと思う。便利な家電製品をあえて使わないで暮らしてみると、意外とおもしろいこともあるから。